

2-22/9

□ 今号の内容 □

1982年

12月10日
第28号
(通巻75号)
6頁200円

赫旗

共產主義者同盟中央機關紙

發行所 赤路社

編集・発行人 北沢 普
東京都大田区大森北1-13-11
電話 03(766)4729
郵便振替・東京7-86947

.....

関西赤路社 大阪市福島区大開
1-19-13副島ビル
電話 06(462)7030

毎月10日、25日発行
1980年2月28日
第3種郵便物認可

定期購読料
1部・22回

手渡し	- 3000円
開封郵送	- 3500円
密封郵送	- 4000円

労組・活動家連絡会議結成さる

83年政治決戦へ進撃しよう！

12.12 清水谷から国会包囲へ向かう左派労働者一千余

反戦・逆行革・全民労協粉碎 中曾根自民党政権打倒へ！

十一月十日〔十一日〕「労働情報」、「労活」を軸として全国結合を深めた各産別、地域の戦闘的労組・活動家によって、労働戦線の右翼再編に反対し、闘う労働運動を強める労組・活動家連絡会議が結成された。同盟・JC帝国主義労働官僚どもの総評解体攻撃と労戦右翼再編・植枝・豪等のそれへの合流、中曾根による戦争遂行国家体制づくりという事態の中で、この結成の意義は計り知れないほど大きい。全国の労働者「連絡会議」に結集しともに闘おう。

「与野党」の人勧継続協議、仲裁実施」といふ合意の内容に、われわれは怒りを禁じえない。

十一日 民主党が示した内容は、明らかに公務員共闘・公労協及び官民統一ストを分断し、攪乱させることで行革の政治的条件を整えようとする意図が露骨にあらわれている。

ましてや、一国民党として、政府をして期末手当の労使促進されるよう環境作りをする」という合意内容にする。行革の突破口としてようとする。そもそも、鉄・林野への期末手当は、カントンを前提とし、他協労労働者との差別賃金をもつてある。そもそも、与野党合意の内容は民衆的である。社会黨の政構研のよう明、社民連、新自由クラブたに反対しない、いな積極性を示すことを前提とする。また、この十四日に「全民労協」がめざす義労戦線統一への「御用」という側面をもつて、「全民労協発足のための構想」を自らの命運も含めて徹底して暴露せねばならぬ。権力・富塚等総評右派は質的に認めた。これを受けて、同盟・JCに屈服、迎撃

でも政
交渉が
に努力
しても、
する国
当初か
の公労
奮んだ
この「一
社、公
づ、ま
な行革
的に押
してい
発足し
帝国王
祝儀」
ことを
ない。
指導部
否い」
基本
めて実
けて中
す。ま
で、ま
た、ま
うれ
そ「仲
を形ば
認め、
派指
地位保
全たの
である。
糧は、人
反対の
通して
労働者
とりわけ
人労協
や櫻木・
豪の首まで飛ばし
ねないからこそ、またそうい
うねりがあらわれているから
そ「仲裁」を形ばかり認め、
派指導部の地位保全を計つて
つたのである。
全ての労働者諸君、櫻木
豪の裏切り、闘争放棄を許
ず、全労働者の実力で一切の
別分断を粉砕し完全勝利を
まとう。なによりも反行革
旗をしつかり掲げ、全労働者
聞いを、金銀労協粉砕、中
根政府打倒へ、土光をはじ
とする金融独占資本と中根糧
攻撃を粉碎する力こそ、今年
の闘いの中で示されねばなら
い。

の熱氣を見せてきた。また十二月には、「連絡會議」の成果をもつて東京・清水谷で全國の戦闘的労働者は「全民労協発足を許すな! 行革・ベア凍結粉碎! 自民党内閣打倒!」を掲げ総決起集会を開いたり、一千名の戦闘的デモを国会にむけ組織した。

十四日、全民労協が榎枝・富塚の「基本構想」の実質的承認で、「討議経過の承認とはこのことである」予定通り発足した。ゆるやかな連合といわれてはいるが、その美、総評労働運動の空洞化、分解、帝国主義的劣戦統一のスタートである。戦後労働運動の主座、総評の半和と民主主義、改良主義は根底から崩壊せんとしている。これを喰いとめ、真に労働者階級・人民の利益を擁護し、日本帝國主義と対決していく任務こそが「連絡會議」の結成主旨である。

改良主義―民同の破産と変質

国会包団に出発する公労協・公務員共闘

職場、地域で日々、資本主義的官僚と闘う労働者大衆の真利益を守りぬいている全国の活動家諸君！「連絡會議」には集し、固いスクームを組み、社会主義をめざす階級的労働運動の創出、被压迫人民の解放をさし闇いぬこう。わが同盟の一翼を主力で担い、社会主義革命のため奮闘するであろう。

日帝打倒・米帝一掃・プロ独・社会主義掲げ

83年政治決戦の準備を



11・30 反行革シンポジウム(東京) = 5面に報告記事

中曾根表明

腐りは 帝国主義の屋台骨

十二月六日、政治倫理確立議員懇談会(檜崎弥之助等四十六人)と労働四団体が、この十七日から「田中支配の中曾根内閣との対決」を政治倫理確立運動として合意した。確かに田中の金儲腐敗は戦後ブルジョア政治のきわみにある。だが、いま労働者・人民に問われ必要とされていることは、中曾根政府の反動化との対決を政治倫理にすりかえり開くことではない。

中曾根は衆参両院で所信表明を行なった。この所信表明は、「わかりやすい政治話しかける政治」というキヤッヂフレーズを出さねばならぬ自民党政治そのものの危機を吐露しながら、その強権的打開にのり出す姿勢を示している。例え「内外における平和の維持と我が国の民主主義の健全な発展を図ることや」「たましい文化と福祉の国日本」をつくることとして、中曾根が掲げた政

治目標は、その隨所に戦後日本の軍事的・社会的再編、まさに

中国共産党の対外政策の変化と反霸権外交

六三年以降、公然化したかたちで進んだ中ソ論争―国際共産主義運動をめぐる路線闘争―と中ソ対立は、いまや国境紛争の解決と国交回復の途につきつてあるといつてよい。もちろん二十年の論争・闘争の経過から見て、中ソ両共産党の関係がすぐには復されるわけではないだろう。しかし、国交回復としてはむしろ「和解」の動きが今後の国際情勢、とりわけアジア情勢に与える影響は少なくないといえる。(例えれば、朝鮮半島の現状固定化、「クロス承認」に向けたと思われるソ連の全土換政権への接近等が、こうした情勢を背景としてすんでいると考えられるからである。それゆえ、中國外交もまた本当の意味で「反霸権」の内実が問われる局面にいたるとしている。

アフガン・カンボジアへの対応等々から対中接近を開始した。この対戦略は、いま中ソ和解をステップとして対米攻勢へ移ることは必至である。

中国共産党的ほうは、九月の十一・全空大会と十一月の全民大選挙の強化、日米安保の強化、日米安保の強化と米中・離ミサイルの配備、歐州方面への軍事力の強化、日米安

保の強化と米中・韓の対応、またボーランド、欧外交の誤りをわれわれに想起させるのである。

日本共産体制の強化・再編と日帝の軍事強化が、アジア人民への大きな影響を落しはじめている。この結果は、かつてのソ連・スターリンの第二次大戦前の対独・対英・仏・対東

欧の誤りをわれわれに想起させるのである。

日米安保体制の強化・再編と日帝の軍事強化が、アジア人民との連帯した反戦・反安保の闘いをより強化し、戦争

建設の重視からきていた。そして同時に、米帝・レーガンの台

湾への武器輸出等にあらわれた強行策への反発から、かつての

国プロレタリアートとして主張し、国際プロレタリアートの隊伍をふたび整えていくことに、われわれは力を注ぐのではな

ればならない。

もちろん、中国の対ソ国交回復という国家関係の樹立が一般的に批判されるものではない。だが問われることは、米日西

欧諸帝の世界支配をめぐる争奪戦に対する中国共産党

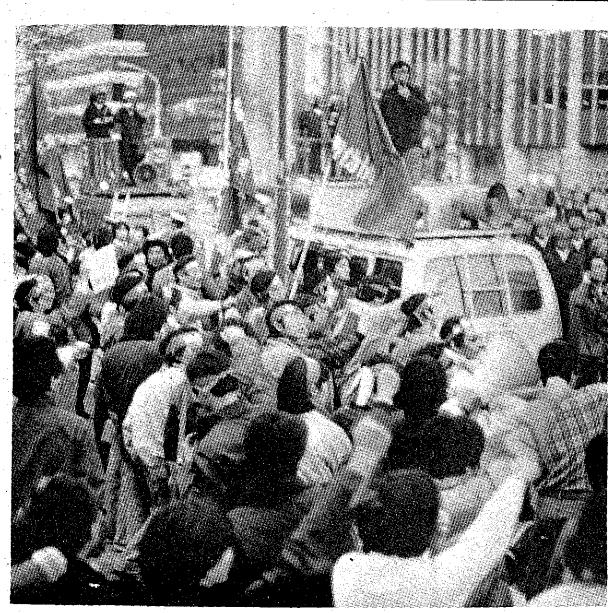
にわれわれが暴露し、指摘してきた帝國主義戦争遂行国家体制づくりの意図をこめているのである。

これは、金融独占ブルジョアの危機を全般的に労働者・人民に転化することのみを目的としたものではなく、経済的には流れはあるが、政治的軍事的には流れである。日本帝王国主義を政治的軍事的にも一派流れていた。だがしかし、国際社会

に新たに決意で行革を実行する

ことを誓約したのだ。また、対外関係でも確かに日本の「日米安

全般体制の維持」とその枠内で「賃の高い防衛力」が掲げられていた。だがしかし、国際社会



12・12 全民労協結成粉碎闘争

自民党政府は、国債発行による国家財政の巨額の赤字を清算し、財政危機をのりきるために、七十年代に「貢と増税」を行なうとしてきた。中心は、最終的には消費者へ負担が転化される最悪の大衆課税である一般消費税の新設である。しかし、人民大衆の反対が高まると、大平内閣が一般消費税新設による財政危機を掲げた七年の衆議院選挙で、自民党は過半数ギリギリに落ちこぼす敗北を喫したのである。そこで自民党政府は、太平首相が急死した翌八年の衆議院選挙でソ連脅威論、國



寄せ場の仲間は12・12国会包囲闘争に決起した

赤軍(プロ革)派のデマ・中傷を批判する

はじめに

反戦反核闘争の高揚や右翼的労戦統一反対の闘いの前進など、戦争準備・反動生活破壊の自民党政府打倒へむけた闘いが広範に生みだされ、八十年代級闘争ともいうべき歴史的転換期をむかえている。

この激動の時代に、従来の活動を墨守している部分のなかに、新しい時代に対応できない七十年代の秩序を夢みる部分が存

在することも不思議ではない。

彼らは、傳統のなかで腐敗を生みださるきえない。

その一つがプロ革派の諸君である。

こうした部分の腐敗と墮落は、いまや労働者大衆の疎外物に転化するかどうかの瀬戸際にいた

されている。すぐ間にわれて

いるのは、自らの政治性を大衆的に実践し、検証し、真に階級的力へと転化できるか否かである。

だが、プロ革派諸君はその真理の一片も理解していないよ

うである。

プロ革派は、わが同盟に対する中傷ビラを大衆集会で配布するという挙にでてきたのである。

この中傷ビラは、「事実経過」を明らかにするとみせて、その実

わが同盟への誹謗中傷をもつぱ

らざるものである。それゆえ

われわれは、彼らの他者を批判する方法が事実にもどいたものではない以上無視し、対応しない態度をとってきた。これに

何を勧めじたのが彼らは赤

軍(七号)の「社説」で日雇金協

結成の過程で、われわれの同志

に「陰謀」があつたと主張してき

た(それも実名入りで)。われわ

れは、当然にも論争は闘争を可

能とするよう節度ある態度で

すめるべきであり、これに逸

脱している社説は撤回すべきであると申し入れた。

この申し入れを一つの契機と

して、われわれは、日雇金協結

成時につくりだされた混乱(勿

し、積み上げて反古にし、現場

のつきあい)に指導性を解体し

ていったのであった。

プロ革派が何故このような

決裂の道をまくんだのかは、

特別聲明の心情吐露により明

らかになった。彼らは、そのな

かでわれわれを「批判」して次の

ように。『赫旗は大衆運動

の自己の党員を指導・統制で

きない党なの? 山谷は君の

個人的テリトリーで、山谷の

全面開花させているのは、話し

合いとは自らの主張を他者の

ませんものと悪いのみ、他者の

批判に謙虚に耳をかまむはず、

何の反省の契機をつかみださな

いその作風にある。これは、実

践のなかから教訓をつかみだら

ない無純主義と急進民主主義

政治特有の大言壯語「願望の

社会工、出稼ぎ労働者、パート

更には数百万の失業労働者総体

の階級的團結の橋頭堡として、プロレタリア下層の眞の統一を闘

うことに急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。

これが、日雇金協結成の意義

であり、だからこそ多くの闘う

闘争の賛意がえられたのである。

だが、この根本的利益を守り

おこう。

なによりも、寄せ場の闘いに

あつての積極面は、日雇・下層

労働者の帝国主義と主導的対決

といふことが急務である。